

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	みらいく鷹番園
施設所在地	目黒区中央町1-19-9
法人名	株式会社第一コーポレーション

1. 活動のテーマ

<テーマ>

- ①自然及び自然物との関り
- ②光
- ③運動遊び
- ④ブロック遊び

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

- ①近隣に自然豊かな公園が何か所もあり、そこでの戸外活動を通して、土の環境（虫との関り）などにも興味を深めたい。
- ②主に光のテーブルを用いて、光が生み出す不思議さを様々な自然物などの観察も行いながら興味を深めていきたい。
- ③体をのびのびと動かし、バランス感覚、空間認知、体のコントロール、集中力、判断力、感情のコントロールなど養いたい。
- ④異年齢活動の中で、ブロック遊びを通して子どもたちが共同して何かを作り上げていくことの楽しさを味わう。

2. 活動スケジュール

- ①週2回
- ②月1回
- ③毎月1回（太鼓の活動は4～7月までの間、月1回）
- ④週1～2回

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ①週の活動の予定に、戸外活動を入れる。園庭での食物栽培のための土、肥料、種、苗など
- ②光のテーブル、自然物
- ③マットレス、太鼓、運動遊び遊具
- ④ブロック、作り上げたものを設置しておくための空間

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ①公園ではネイチャーゲームを行ったり、ビンゴゲームを通して自然物の収集、観察などを行った。
 - ・近隣の方にアドバイスをいただきながら、園庭の花壇で野菜を育てた。土の中にある生物、虫などを観察して、わからないところは図鑑で調べたりした。
- ②光のテーブルを使って、様々なものを映し、光の反射や素材への光の反射具合などを観察した。
- ③運動遊びでは、さまざまな遊具を用いて体を動かすことの楽しさ、できなかったことができることの嬉しさを感じた。
 - ・太鼓遊びでは、協働して音を出し、合わせることのむずかしさ、楽しさを学んだ。
- ④ブロックを用いて、友達と一緒に意見を出し合いながら作りあげていくことの楽しさを経験した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- (活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)
- ①自然の中での遊びを通して、日々移り行く季節を感じ、言葉で表していた。「風が気持ちいいね、機能最低なかった紫陽花が咲いたね、いろいろな鳥の鳴き声が合わさって聞こえるね。お野菜を食べてしまう虫だけど大事にしたいね」など子どもの心が感じた声を拾い、保育者がそれにこたえる、を繰り返しているうちに、表現がどんどん豊かになっていった。
 - ②光のテーブルに様々なものを置いて観察しながら「光を当てたら小さく見えるのなんだろう？」など、水をおいたらキラキラしてきれいだね、砂をおいたらどうなるだろう」などと、物によって見え方が違うことなど発見を言葉で表現する姿があった。保育士も、戸外活動で収集してきた自然物などをおくことを提案したりしながら、子どもの好奇心を高める工夫をしていた。
 - ③あたらしい動きを講師から教えてもらうたびに、できるようになるまで粘り強く挑戦する姿があった。
太鼓では、音を合わせることの心地よさを知り、もう少し強く、早く叩いてみよう、など子ども同士で動きなどを工夫する姿があった。
 - ④他児が作り上げたものを見て、同じものを作ろうとするのではなく、こんなものを作りたい、とそれぞれに試行錯誤を重ねる姿から、一緒に協働して一つのものを作り上げていくことの楽しさに発展させていく姿があった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- 活動を終えるたびに、子どもたちの思いを振り返る機会を作り、さらに次の活動へと発展させるように環境づくりを行うことを繰り返していった。こどもたちが表現する思いの言葉を日々驚きとともに受け止め、子どもたちがさらに豊かな表現力を身に着けていく姿を感じた。そのことによって、保育者自身、日々の保育を充実させていくことに繋がっていった。